

はじめに

米国に出張して、タクシーに乗る時、いやな思いをした人はいないだろうか？ ニューヨークやロサンゼルスなどの大都市に出張したとき、市内を移動するには、バスの経路や乗り方をよく知らない日本からの旅行者にとって、タクシーは便利な乗り物である。チップの計算が面倒という人もいるが、慣れれば楽で、5~6ドル走る時には、端数を切り上げ、もしくはさらに1ドル足すくらいでよい。大きな荷物を載せたりおろしたりするのを手伝ってもらった場合に、荷物1個につき1ドルを足せばよいとされる。今回、このタクシーと米国で普及が進むUBER（ウーバー）を取り上げたい。

1. タクシードライバーは米国移民の最初の仕事？

ニューヨークで筆者が最近タクシーに乗った時、ドライバーに行先を告げたが、彼曰く、「今日、アメリカに来てはじめてタクシーに乗るので、道を知らない。」以前、英国ロンドンで乗ったタクシーとは雲泥の差である。ロンドン市内のタクシードライバーになるには厳しい試験があると聞き、あまりのレベルの差に驚いたものであるが、最近ではすっかりそれに慣れ、サービスの質（丁寧さ、車内の清潔さ、悪臭なし）を米国タクシーに求めるのは無理という感覚が広がった時に、UBERのサービスが始まった。

米国ジョブサイト大手、indeed.comによると、2017年に入って、米国への移民は、メキシコからよりも、アジア（特にインド）からが増えており、移民の最初の仕事のベストテンがレポートされているので紹介する。それによると、タクシーの運転手は10位で、米国全体では目立っているわけではないが、タクシー運転手の中では36%（2000年）を移民が占め増加傾向が続いているとの調査報告があり、米国で初心者運転するタクシーに乗ってしまうことが多い理由もわかる。

〈米国移民の最初の仕事〉

- 1位 農耕仕事
- 2位 理容師、メーキャップアーティスト
(personal appearance workers)
- 3位 左官、建築職人
- 4位 ミシン職人
- 5位 型枠工、屋根職人
- 6位 農業
- 7位 縫製職人、テーラー
- 8位 メイドやホテルなどの清掃
- 9位 ドライクリーニング
- 10位 タクシードライバー

(2017年1月19日付 indeed blog 資料に基づく)

2. UBERは2009年にサービス開始

UBERの歴史を見てみよう。UBERは、2009年にテクノロジーサービス会社として、米国加州でタクシー配車サービスとして産声を上げ、

Ridesharingのサービスへと発展してからは、世界に広がり、2017年には、60か国334の都市でサービスが展開されている。

Ridesharingのもともとの意味は、同じ目的地を持った複数の人が同じ車に乗って、効率的に目的地に移動することであるが、それをリアルタイムにデマンドに基づき、タクシーなどの専用車両使わず実現したのが、“Real-time ridesharing”もしくは“On-demand ridesharing”サービスである。GPS、スマートフォン、ソーシャルネットワークの普及と技術革新がこのサービスを世に出したといわれている。具体的には、一般人が自分の空いた時間と自家用車を使って、他人の求めに応じて、他人を運ぶサービスを行う。Uberのほかに、Lyft、Sidecarなどがあるが、現在どちらも大手自動車会社の傘下に入っている。

UBERをタクシーと比べたメリットは、運転手を選べ、タクシーより安く（通常）、運転手と乗客の相互評価により特に運転手の質を保つことができ、キャッシュレスで利用でき、スマートフォンにより乗る車の現在位置や配車時刻・到着予想時刻がわかり、電子領収書が必ず発行される点などがあげられる。タクシーメーターを倒さず、料金の妥当性が判断できないケースが頻発するタクシーと違い、乗車前に金額とドライバーが判明しているUBERのサービスが広く普及してきたのうなずける。

3. UBERのサービスの課題

UBERは、客の払った料金から手数料を引いて運転の対価を払う仕組みなので、UBERの運転手にとってみれば、自分の空いた時間に小遣いが稼げるというメリットがある。しかし、UBERの運転手の多くは、客を運送するサービスを提供するプロではないので、運転の質を高める取り組みは会社として行っているものの、個人の能力差や性格によってサービスの質が大きく異なるリスクは残り、サービスが普及し運転手が増えるこの問題は拡大する。また、既存のタクシー業界からの反発も根強く、訴訟や運輸当局から営業禁止命令を受けた国、地域もある。

おわりに

日本では、UBERは2013年11月に試験サービスを開始し、2014年8月より東京都内でタクシーの配車サービスを開始した。2015年2月には、福岡市で、一般人が自家用車で運送サービスを行うReal-time ridesharingのテストを開始したが、国土交通省から「自家用車による運送サービスは白タク行為に当たる」と指導が入り、サービスが中止となり、現在は、商品配達サービスなど人の運送にかかわらないサービスに限定して行っている。日本でもこれを普及させてよいかどうかを考えるために、米国に出張の際は、UBERのサービスを一度ぜひ利用されたい。